

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科 職階 講師

氏名 岡谷友三アレシャンドレ

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生、人獣共通感染症、獣医公衆衛生学実習Ⅰ）、獣医疫学、獣医学特論ⅠおよびⅡを担当している。これらは社会で幅広い領域を網羅する応用獣医学に分類される。公衆衛生学分野にかかわる獣医師は食中毒事件の原因解明や発生した際の責任の所在追及や人獣共通感染の蔓延を防ぐなど大きな責任を負うことになる。

そのため、責任感のみならず、状況を正しく把握し、厳密な分析を行わなければならない。そのような人材を育てるにあたり、学生には日常の些細な変化や実験についても高い精度や細やかな気遣いができるよう注意を促している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医公衆衛生学（総論・食品衛生）	獣医学科	必修	3	140
獣医公衆衛生学（人獣共通感染症）	獣医学科	必修	4	140
獣医公衆衛生学実習Ⅰ	獣医学科	必修	4	140
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	2
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	5
卒業論文	獣医学科	必修	6	5
総合獣医学	獣医学科	必修	6	140

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生、人獣共通感染症）および獣医公衆衛生学実習Ⅰ（食中毒、人獣共通感染症）は獣医師領域の多分野で必要となる知識であり、獣医国家試験の必須科目である。また、これらの分野は人の日常に密接に関連した問題でもあり、日常的に事件・事例が発生している。このことを理解したうえでこれらの問題を対処できる学生を育成することが目標である。また、国家試験についても、問題なく受かる学力を身につけることを理念とする。

私自身は外国（ブラジル）で育ち、獣医学も日本と異なる環境で教授した。したがって、類似した内容であっても、異なる観点でもものを見て考えることができる。このように、物の考え方を一辺倒ではなく、多角的に見て考え、物事を広い視野でとらえることができる人間を育成する。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

獣医公衆衛生学も獣医公衆衛生学実習Ⅰも獣医国家試験の必須科目であり、非常に分量が多い。そのため、多くの部分はいわゆる「詰め込み」方式で内容を記憶する必要がある。その「記憶する作業」を援助するため、なるべく内容をコンパクトにしたスライド等を作成し、多くの情報をまとめて教授できるように工夫をしている。また、これらの科目で学ぶ問題は社会で日常的に起こっている。これらを学生に提示し、より身近であることを感じ取ってもらい、興味を持ってもらうようにしている。さらに、出来る限り関連した話題を学生に提供し、どのように考えるかなどの議論を試みている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

授業・実習の内容にリンクした実際に起こった問題を提示し、学生自身で考えるよう促している。また、実習については、行う作業を前もって説明し、予習を促し、さらには実施した作業について学生に説明させるなどをして復習をさせている。

(2) ICTの教育活用

有

Azamoodleを利用して学生にパワーポイントで作成したファイルや動画を提供。また、課題などを課した。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

教科書以外に過去や現在に起こっている関連事象を組み込んだ授業用スライドやまとめを作成して授業・実習を実施している。

(2) 学生の理解度の把握

B

授業毎、実習毎に学んだことについて学生に問いかけ、一方方向の授業にならないように心掛けることによりその理解度の把握を試みている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

授業・実習のたびにすでに学んだことについて問いかけをすることを心掛けている。また、課題やレポート等を課して自学実習を促している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

学生が質問をしやすい環境を作ることを心掛けており、質問があれば即座に対応している。

(5) 双方向授業への工夫

A

授業では学生に質問を投げかけることで学生とのやり取りを試みている。また、実習では実施した作業や得られた結果について学生に問いかけして双方向授業を心掛けている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

授業・実習中に特に過去の国家試験で頻繁に出題された内容に関してはそのことを伝えて注意を促している。また、近年の出題傾向から重要と思われる項目は強調して授業・実習を行っている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

学生にわかりづらいと指摘されたスライドや見づらいと指摘があったものの改善を行い、説明の仕方や表示方法を工夫した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

同じような指摘はなくなった。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

学生の授業評価は常に確認し、必要があれば対応する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

授業・実習内容がとにかく「記憶する」ことが多いので学生が興味を持ちづらい。

これらの内容が日常にリンクした内容でありことをなるべく強調し、それらの重要性を認識させ、記憶に残るよう努力をしている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からの評価は賛否両論あり、基本的にはバランスの取れた内容となっていると思われる。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FD 研究会にはできる限り参加し、自身の授業や実習に取り入れることができるものは活用している。また、他の教員の授業を拝聴できる場合にはそれら授業でよいと思ったことを取り入れるようにしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

授業・実習内容はコアカリに準じたものでなくてはならないが、関連した時事ネタなどを込みこんだ資料等の準備を行い、学生がより積極的に勉強するようにしたい。また、より多くの内容を提示し、広い観点でものを見られる学生を育成したい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス、レポート課題、PPT 教材、配布資料。